

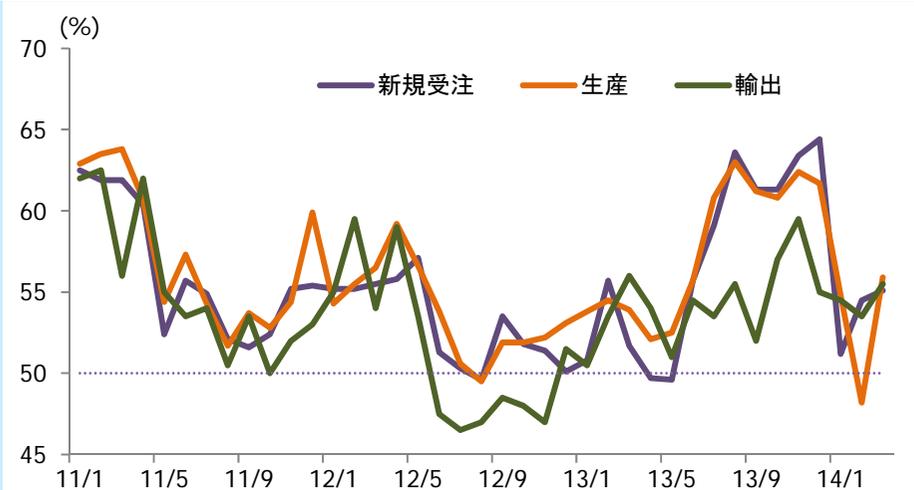
米国：ISM景況感指数（2014年3月）

MRI Daily Economic Points
April 4, 2014

図表1 総合指数



図表2 新規受注、生産、輸出指数の推移（製造業）



資料：米供給管理協会

Copyright (c) Mitsubishi Research Institute, Inc.

評価ポイント

今回の結果

- 3月のISM製造業景況感指数(総合、4/1日公表)は、53.7と前月(53.2)から小幅上昇。水準では、製造業の拡大・縮小の分岐点である50を10ヶ月連続で上回った。
- 項目別にみると、雇用(51.1)、入荷遅延(54)が低下した一方、新規受注(55.1)、生産(55.9)が上昇し、3月は寒波による影響が剥落してきたことがみとれる。在庫(52.5)は前月と同じであった。50を上回り生産活動が拡大した業種は18業種のうち14業種であり、前月と同じであった
- 3月のISM非製造業景況感指数(総合、4/3日公表)は、53.1と前月(51.6)から上昇した。水準では、50ヶ月連続で非製造業の拡大・縮小の分岐点である50を上回っている。
- 項目別にみると、ビジネス活動(53.4)、入荷遅延(52.0)が低下した一方、新規受注(53.4)、雇用(53.6)は上昇した。また、50を上回り生産活動が拡大した業種は18業種のうち13業種であり、前月(10業種)から増加した。

基調判断

- 寒波の到来により企業活動はやや減速していたが、堅調な国内消費と緩やかな海外経済の持ち直しを背景に、米企業の景況感は底堅く推移している。

今後の流れ

- 先行きも、企業活動は緩やかなペースで拡大を続けるとみられる。2013年に比べて財政政策に関する不確実性が後退していることも追い風となろう。ただし、量的緩和政策の縮小過程で、金利が急激に上昇する可能性には留意が必要である。